

令和7年度第一回 男女共同参画会議
議事要旨

基本目標 1 政策・方針決定過程への女性の参画の拡大

【委員】

- ・選挙管理委員へ今年女性が1名登用されたが、こちらの数値に反映されているか(確認)。

【事務局】

- ・反映された値となっている。

基本目標 2 雇用等における男女共同参画の推進と仕事と生活の調和

【委員】

- ・沖縄県ワークライフバランス認定企業数を増やすための糸満市としての取り組みについて、市内認定企業数の目標10社に対して、現在は4社となっている。市の広報紙にメリットを掲載するなどの働きかけができないか。

【事務局】

- ・県や国の制度の内容を周知するとともに、企業にとってのメリットを広報紙などで周知を図りたい。

【委員】

- ・市の男性職員の育児休業の取得について、取得したとされる期間の定義はあるか。
- ・出生予定があることを把握した段階で職場から育児休業の取得についてお声かけをしたり、時期が近づく段階から人事配置や仕事の調整をしたりするような取り組みがあると取得しやすくなる。

【事務局】

- ・男性の育児休業については、取得した段階で期間に関わらずカウントしている。
- できる限り休暇を取得させたいが、相談しながら調整をしている状況である。

【委員】

- ・保育所等利用待機児童数に関する数値に改善がみられ、目標値に近づいている。
- また、放課後児童クラブの充実も図られている。

【事務局】

- ・改善がみられる大きな要因は、就学前児童数の減少と、それに伴う申込者数の減少が考えられる。一方で、保育士不足を解消するためには保育士を定着させる必要があり、課題として感じている。
- また、放課後児童クラブは利用ニーズが毎年増えてきており、施設数の拡充が必要だと考えている。

基本目標 3 地域における男女共同参画の推進

【委員】

- ・糸満市には、全国に7か所ある国の備蓄拠点の一つがあると聞いている。
課単位での取り組みをみるとあまり進んでいないように感じる。実際に災害が起った場合に女性の参画に配慮がなくケアが行き届かないかもしれないという危機感があれば取り組みが促進していくのではないか。

【事務局】

- ・支援が必要なひとり親家庭への配慮施策(No55)について補足
これはすべてのひとり親家庭を対象としたものではない。養育困難な方や、災害時に特に判断を躊躇してしまう保護者の方を想定している。
個別の支援計画を作成するため、対象となりそうな保護者の把握を進めているが、個別の支援計画の作成までには至っていない。
- ・国が福祉型の防災支援拠点を設置しているということは公表されていないが、情報は入手している。こうしたものは活かしていくように今後も取り組んでいきたい。

【委員】

- ・消防団員については、女性団員の登用だけでなく、男性団員の確保も苦慮している傾向が全国的にみられる。
- ・糸満市には 74 自治会がある中で自主防災組織連絡協議会がある団体は 15 に留まっている。
- ・社会福祉協議会は災害に見舞われた熊本県や能登半島へ職員を派遣した。災害時の協力者の参集という部分でも、糸八青年会議所と協定を締結して訓練を実施してきた。

自主防災組織や赤十字奉仕団と一緒に協働して炊き出し訓練を継続し普段から備えを強化したい。こうした取り組みの中で男性と女性の両方の視点から必要なものを取り入れたい。

【事務局】

- ・火災や救急時は、平時においても女性の消防職員や救急救命士がいた方がよい。
しかし人員確保という面で現実的には厳しい部分があると感じている。

基本目標4「あらゆる暴力の根絶」

【委員】

- ・成果指標 12 について
沖縄県が現在ワンストップセンターを設置したりして、相談や被害者支援を行っている。
市町村も、こういうところに相談場所がある、ということを啓蒙する意味で性暴力に関するアンケート項目も設けた方が良い。

【事務局】

- ・次年度の見直しの際にアンケート項目や方法について検討したい。

基本目標5「困難を抱える人への支援」

【委員】

・成果指標 15 子どもの居場所の設置数について確認

この項目は行政が設置、委託しているものが対象か。

民間の部分も別の指標として設けることも検討したほうがよい。

・母子家庭の高等職業訓練促進給付金の実績は他市町村より多いので支援を継続してほしい。(No81)

基本目標 8「男女共同参画社会推進のための教育・学習の推進」

【委員】

・子どもたちが男女に関係なく家事などの役割分担を学校で学んできているということを実感として感じる。

・市内1校の中学生を対象とした CAP 講座を見学したが、とても良い取り組みであった。(No133)

その他

・具体的な施策(指標)の意図していることと、実績に書かれている実績の趣旨が異なっている項目がいくつかみられる。

・計画の見直しの際に抽象的な内容については見直す必要がある。